



會

第十六卷  
第十一號

フレットベル

孫子兵法



## 本 號 目 次

幼稚園出身の成績	山邊知之
秋のうた	三宅友子
畜のいろ／＼	京
幼児感情調査	城東幼稚園
フレーベルの思想	紹介
行啓の日	倉橋生
文展の「子供」の繪	倉橋惣三
雑録	大正五年十一月五日印刷納本

### 本誌定價

一冊 郵稅共金拾參錢 六冊前金郵稅共七拾貳錢  
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用一割增  
購

### 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂  
込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六  
番)

### 本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學  
校附屬幼稚園内フレーベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々  
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正五年十一月五日印刷納本  
行

東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四  
編輯兼發行者 倉橋惣三

東京市本所區番場町四番地

印 刷 者 守間

功

東京市本所區番場町四番地  
印 刷 所 凸版印刷株式會社本所分工場

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內  
發 行 所 フ レ ー ベ ル 會

# 日本一年幼木

□ 倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と面白い嘶とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雑誌です。

本誌は、玩具とお嘶しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となります。

定 價

壹冊拾錢 □ 半年郵稅共六拾參錢  
郵 稅 豐 錢 □ 壹年同 壹圓貳拾錢

婦人畫報  
少女畫報  
日本幼年

發行所

(東京京橋鍛冶橋外  
振替東京四九〇〇)

東京社

羽仁ともと子主幹

# 友之供子

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿画も子供の喜ぶものばかりです。樂んで読む間に、頭脳をよくし感情を高尚にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的な挿画も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

# 婦人と子ども

大正五年十一月五日  
第十六卷第十一號

## 滿鮮幼兒教育視察談

(フレーベル會總會講演大要筆記)

### 倉橋惣三

本日は澤村文學士の「現代に於ける日本畫の潮流」と題する極めて趣味に富んだお話が御座います。今やこの美しい秋は美術の季節でありまして、今日斯ういふお話を伺ふことの出来るのは誠に感興の深いことで御座います。一體美術に對する一通りの理解と豊かな趣味とを有することは、教育者にとつて極めて必要な一つの資格であります。が、分けても幼兒教育者に於て一層さうだと思ひます。

乃で本會に於ても斯ういふ方面のお話を伺ひ度

いといふことは豫ての希望であつたのでありますて、今日このお話を伺ふことの出来るのは私共の大なる幸と思ふのであります。で今日は澤村君にゆつくり十分のお話を願ひたいと思ふのであります、私がこの夏一寸満洲、朝鮮へ參りました、その教育の狀態を少しばかり見聞して來ましたので、そのお土産話を申上げることとなりました次第であります。但し満洲も朝鮮も既に少しも珍しい土地ではありませんし、殊に私の旅行が一ヶ月ばかりの極く不十分の觀察でありますから何等纏

つたことも申上げられません。

### ◎満洲觀察の基礎的氣分

扱て満洲の諸般の問題を理解し又解釋するには何うしても缺くことの出来ない二つの基礎的氣分とも申すべきものが必要であります。その一つは満洲に於ける我國の經營の第一の出發點としての、あの三十七八年の戰役でありまして、もう一つは東洋の現在及び將來に對する我國の位置といふことであります。大層大きい問題を持ち出すやうでありますか實際この二つの意識なしに満洲を考へるといふことは到底出來ぬのであります。これは政治に於ても、産業に於ても言ふまでもない事であると思ひますが、教育に於ても實にそうであります。私は満洲に参ります前、その準備として彼地に關する種々の著述を調べましたり、又彼地の智識を有する諸方面の人々に就て、その觀察や意見を聞いて廻りました時にこのことを感じたので

ありましたが、彼地に行つてから更に痛切に感じたのであります。殊に私は初めの一週間を旅順に滯在して居りまして、午前の講習會を終ると、午後は殆んど毎日、四方の戰跡を歴訪しましたので、満洲を見るに極く大切な氣分をしつかりと興へられたのであります。講習の會場に充てられたのは旅順高等女學校の講堂であります。それは花畠を前にして建てられた白壁造りの瀟洒たる一棟で、大層氣の利いた建物だと思つて居ましたらこれが日露戰爭の時、露西亞の海軍士官達が酒を飲んで歌ひ戯れて居る最中に我が艦隊の夜襲を受け驚き騒いて劍を執つて船に歸つたといふ、あの有名なホールだつたのであります。私はこの話を聞いてから、その講堂に入る毎に、その當時の光景——それも酒に酔ひ痴れて狼狽して居る狂態ではなく、寧ろ遠くもない旅順港頭の我が夜襲隊の勇戰苦鬪の光景が眼の前に浮んだのであります。斯ういふことも、あゝいふ土地でないと經驗しな

い感じであります。それから戦跡の現場に至つては今尚壯絶の感に堪えないものばかりであります、彼の二〇三高地に案内して貰ひました時は薄曇りの蒸し暑い日で高地の麓に馬車を棄てゝから上表を脱いで、襯衣一つになつて頂上まで登りましたが、登つてから當時の戦状を聞きますと實に嚴肅の氣に充たされまして急いで上衣を着、襟を正して、その説明を聞かざるを得なかつたのであります。そこの斜面、こゝの岩と詳しい説明を聞けば寸土といへども我が忠勇の血に洗はれない所は無いと言つていい有様で實に聞きしにまさる壯烈なる光景であります。小銃弾や砲弾破片等は今も尚澤山に拾ふことが出来ます。殊に私の驚いたのは數日前の豪雨に洗ひ出された幾つかの白骨が血の滲んだ軍服の破片や革片などと共に現れて居つたことであります、これは露西亞側の勇士のものであるといふことでありましたがいつれにしても實に悲壯極まるものであります。尚又藉土の

ところゞゝがじつとりとして、濡れたやうに光つて居るのを地下の膏の滲み出たものだと聞いた時には何とも形容の出來ない感じがしたのであります。其他斯くの如き壯烈なる紀念は各砲壘の跡を訪ふ毎に胸を愕かしたのであります。勿論、彼の戦役の跡を残すものは旅順ばかりではありません、北、鐵嶺に至るまでの間に到處に存するのであります。が最もその壯烈の度の強いものを集めて直觀的に強い印象を與へるものは旅順が第一であります。但しもう一ヶ所、私に彼の戦役のことを探へさせましたのは奉天城外であります。丁度、あの有名な北陵を見物に参つた時であります。しばらく高地に立つて、彼の奉天包圍戦の概要を聞きましたが、あの一望千里の曠野に於て我が野津軍、黒木軍、奥軍、乃木軍が酣戦した状態は想像した丈けでも實に雄大又壯大なものであります。斯くて私は旅順に於て鋭く、奉天城外に於て大きく、日露戰爭といふものを今更の如く印象さ

れたのであります。この最高の犠牲の代償の一  
つとして考へる時に我が、實に我が満洲の教育の  
如何なる小さき部分をも忽にしがたきことを思は  
ざるを得なかつたのであります。

第二の東洋の現在及び將來に對する我國の位置  
といふ問題に就ては、私共がこれを簡単に考へて  
了ふことは出來ないのであります。あの長い鐵  
道線路に沿うて、北へ北へと進んで行く間に、見  
るもの、聞くことに就けて、始終、嚴肅なる國家  
的の感じの伴はないものはないのであります。即  
ち一人の人といへども、一つの事業といへども、  
皆、國家を背景として、こゝまで前進して來て居  
るものといふ感じがするのであります、殊に長春  
に行きました時に、多くの人々が最前線、最前線  
と言つて居るのを聞いて、實に一種の壯んな感じ  
がしたのであります。この今日の最前線は、彼の  
日露協約の結果に依つて、又一步を進めるわけで  
あります。東清鐵道に依つて、所謂第二松花江

の鐵橋を渡りながら、もう直きに我國の鐵道線路  
がこゝまで延びるのであると、一人で大いに國家  
的自負心を感じたやうなわけであります。

斯ういふ感じを持つ者は單に我々旅人ばかりで  
はありません、彼の地に於ける、苟くも文字ある  
人々はいづれも皆、この意氣組を以て、すべての  
ことに當つて居るのであります。こゝに内地の  
ものよりは一種の緊張を感じるわけであると思ひ  
ます。殊に教育者諸君に於て、さういふ感じがす  
るのであります。例へば今日のお話の主題であり  
ますところの幼兒教育の方面に於ても、國といふ  
考、國家の大切なる子供といふ考はその當事者の  
念頭に始終深く刻まれて居るやうであります。斯  
ういふことは内地にあつても始終考へてゐなければ  
ならないのですが、一度び本土を離れて、  
あゝいふ土地に行つてみますと、更めてこの感  
じが強く起るのであります。これだけの感じを多  
少なり味つただけでも、今回の渡滿は私にとつて

頗る有益であつたと思つて居ります。

### ◎満洲の幼児教育機關

扱て、本題に入つて、彼地の幼児教育の状態から先づ申上げてみやうと思ひますが、元來満洲の教育はその系統が關東都督府に屬するものと、南滿洲鐵道株式會社の經營に係るものと、外務省側の居留民團設立に成るものとの三種に分れて居りますが、その中で關東都督府は現在に於て、特に幼児教育の施設を行つて居りません、居留民團の方では二三の幼稚園を有して居りますが、その主なるものは矢張満鐵經營に屬するものであります。

殊に私は旅順講習の後、満鐵會社の囑に依つてその沿線の教育状態を視察いたしました關保からお話を自然その方に限ることになります。

一體満鐵の教育經營は所謂政府の命令書に依り、即ち國家に代つて、その附屬地内の教育に任

じて居るのであります。その責任上大いに教育に努力して居ります。小學校教育は勿論、支那人教育、補習教育、女子教育、社會教育等にそれぐら力を盡して居りますが特に幼児教育の爲めに初から、その計畫を樹て、力を致して居りますことは我々の特に愉快としたところであります。その幼児教育の場所を特に幼児運動場と呼んで居りますが今日に於てその數は會社の直接經營に係るものが、沙河口、瓦房店、大石橋、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、公主嶺、長春、本溪湖、安東、撫順の十三ヶ所及び地方有志者の經營に係るもので會社に於て補助して居るのが大連の寺兒溝、橋頭、鷄冠山及び今年新に出來た大連北公園の四ヶ所があります。その幼児運動場といふ名を用ひて居るのはその設立の趣意が氣候風土の關係上、幼児の健康に特に留意するの必要を認めて、専ら運動遊戯の方法に依つて、學齡前の幼児を保育するといふところから出來た名稱だといふことでありますが、

この目的に向つては現に十分の効果を收めて、各幼兒運動場に於てその志望者が年々増加するのみならず、新しい土地に於て、その新設を希望するものが續々起るといふ状態であります。即ち満洲に於ては、幼兒教育の必要は毫も懷疑的批評などを蒙ることは無く、一般家庭側からも、小學校側からも、十分にその存在の意義を認められて居るのであります。

### ◎満洲幼兒教育の問題

私は勿論その全部を詳しく見る暇がなかつたのであります、大連に於て特に全運動場の主任保姆及びその運動場の所屬する小學校長を召集して三日間の保育打合會が開かれましたので、廣く各運動場の状態に就て聞くことが出来、又満鐵地方課主任岡本氏等の詳しい説明に依つて、大體の状態を凡ば察することが出来たのであります。先づ順序として、その打合會の状況から申上げますと

第一日は皆で沙河口の幼兒運動場の實地保育を參觀しまして、その後でそれを主題として質問し、批評し、又意見を述べるといやうなことをしましたが斯ういふ會に往々有りがちの沈黙會ではなくして、保姆諸君から盛んに意見が出たのであります。又第三日には豫ねて參會者から提出せられて居る諸種の問題に就て十分意見を交換したのでありますかこれも亦活氣ある會合でありました、殊にその席上に於て私の提出した問題即ち「満洲なるが故に保育上特に意を用ひて居らるゝ點は何か」といふ問題に對して、一人残らずの方がそれが明瞭なる答を與へられたことは私の特に感じたことであり、又大いに利益を得たところがありました。實際、彼地の保姆諸君はその仕事に熱心なる結果、それ／＼多くの問題を持つて居られます。それは「婦人と子ども」の十月號に掲載して置きました多數の問題に就ても知らるゝ所ありますか特にその熱心なる研究の態度は初めての

訪問者をして満足せしめたのであります。

乃で目下の満洲幼兒教育の問題は何であるかと申しますと極めて多方面であつて、一々は申されませんがその主なるものを私の聞き方と私の言葉とに依つて概略的に申してみますならば左のやうな諸點であると思ひます。その第一は所謂幼兒運動場に於て幼兒の健康に留意して主として、運動遊戯に依つて、その保育を行ふといふ場合に、それは單の遊戯場たり又文字通りの運動場たるに止まるべきものであらうか、そこに内地の所謂幼稚園と同様なる意味の幼兒教育が行はれてなくてよいものであらうか、それを行ふとすれば果たして如何なる形式に、又如何なる程度に依るものであらうかといふことであります。これは彼地の幼兒運動場が單に幼兒の遊び場を提供するといふ簡単なる意義から次第に教育の内面的意義に進んで來たものでありまして實際に幼兒の生活に接して居る保母諸君としては當然こゝまで進んで來べき間

題であらうと思ひます。初め幼兒運動場の設置をする場合に先づ目に見える身體の健康といふことから出發したことは、あの土地の實状としてさもあることであります。が實際に幼兒の生活に接していく保母としてはたゞ身體の爲めといふことだけを幼兒生活から區別して考へることは出来ますまい、尤も初めの内はこの問題が夫程深く意識せられず、先年久留島武彦君が渡溝せられた際、或る保母の方が、私共は幼兒をたゞ遊ばせて居るだけでありますと言はれたのに對して、たゞとは何ぞやといふ警告を與へられたといふことを同君から聞いたのですがその後、彼地の保母者君は大分考へられて來たのであらうと思ひます。即ち幼兒運動場が幼兒教育場としての意識を加へて來たといふことが出來るのであります。而してこれは確かに喜ぶべき傾向と言はなければなりません。ところが近代教育の問題は純教育上の理想の方面と社會的實際の方面と必ずしも嚴密に並行さ

せ得ないことがあるのであります、幼児教育にしても、人々の幼児に最も理想的の教育を施さうといふこと、社會の爲めにその普及を圖らうといふことは理論上には必ずしも矛盾することではあります、が實際上には往々にして兩立しがたいことがあつて、茲に教育者の少からざる煩悶を生ずるのが普通であります、満洲の幼児教育も目下丁度その煩悶に入つて居るやうに見えるのであります。會社の教育當事者の苦心も實にこの點にあるやうに察せられました。斯う申すと現在の幼児運動場が教育的にさも不完全であるかのやうに聞えるかも知れませんが決してさうではあります。建物は小學校の一部或は俱樂部の建物など

を利用して居つて、専門的に幼児教育場として設計され、獨立に建築されて居るのは殆んど無いのですが、しかしその廣さに於ても、殊に遊園の廣さ等に於てもこれを東京市立幼稚園の平均状態に比して、決して劣らない、或るものはずつと優つて居るのであります、尤も東京市の幼稚園の設備が甚だ結構でないものが多いのでありますから、それを標準にしたところで、何の役にも立たな、やうなわけではあります、が會社が幼児運動場の爲めに、幼児一人に就き年十二圓の人頭割(月謝六圓、總額計十八圓)の支出をして居ることは必ずしも少い額ではないのであります。(以下次號)

## 幼稚園出身の成績

城東幼稚園長 山邊知之

確か本年の二月であつたと思ふ。青山師範學校

の附屬小學校で發した家庭通信に、幼稚園出身兒

童は入學當時は非常に成績がよろしいが、日を経るに従つて、漸々庸化して行く。然るに一方幼稚園を通らずに家庭から直接に小學校へ來た兒童は幼稚園出身兒童に對して入學當時に比較的劣るが日を経るに従つて、漸々優化して行く。つまり幼稚園出身兒童と、家庭から直接に小學校へ入る兒童とは丁度正反対の現象を呈し、結局、幼稚園出身兒童がその入學前の幾年かの保育に負ふ所は極めて些少であるといふことになる、否そればかりではなく、幼稚園出身兒童はたゞ入學當時二三ヶ月の間に於て稍々取扱の便宜があるのみで、その後は教師に押れる傾向があつたり、授業時間中に手いたづらをしたり、教師を保姆の如く心得て居たりして甚だ喜ばしからぬ事柄が多い——と大體這麼ことが言つてあつたと思ふ。

この家庭通信には尙同校が三ヶ年に亘つて調査したといふ幼稚園出身兒童と然らざるものとの比較成績表が掲げられてある、これは毎年第一學期

の終、即ち七月の末に調査した成績と、第二學期の終、即ち十二月の末に調査したそれとを比較したものである。これを見ると、幼稚園出身兒童は、第二學期の成績を第一學期のそれに較べて、

よくくなつたもの

五・二六  
七三・六九

よくもわるくもならぬもの

一五・七八

斯る結果を得て居るのである、即ちよくくなつたものが非常に渺く、わるくなつたものが非常に多いのである。然るに一方幼稚園を経ずに家庭から直接に小學校へ來た兒童は如何といふに、これは又非常に結構な成績を得て居る、即ち

よくくなつたもの

四四・八三  
一三・七九

よくもわるくもならぬもの

四一・三七

といふ結果になつて居るのである。而して尙この家庭通信には幼稚園に關して斯ういふ結論が掲載せられて居たのである。即ち幼稚園は必ずしも

悪いものではない、立派な幼稚園は否定すべきものではないと、

諸君は以上の統計なり、所説なりに就て如何にお考へになるであらうか。

最後の結論として掲げられた、幼稚園は必ずしも悪いものではない、立派な幼稚園は否定すべきものではないといふやうなことは何事に就ても言はれることで、立派などか善いとかいふ形容詞は既にそのものゝ否定せらるべきでないことを物語つて居るのである、故に斯ることは論とはならぬのである。

而して、彼の比較成績表の如きも、よし三ヶ年に亘つて之を調査したるものにもせよ、第一學期と第二學期との比較成績だけを調査したに止り、而かも他校に於ける同様の統計をも參照することなしに、幼稚園の可否を斷定する材料とするが如きは些か亂暴である。

卒業した兒童に就て、毎年、幼稚園出身及び非出身の兩種兒童の成績を比較し、次に掲ぐる如き表を得て居る。これは僅かに一學期を隔て、比較した成績ではなく、尋常小學の業を終へた時に、幼稚園出身兒童と、同上非出身兒童との成績を比較したものなのである。

この坂本小學校の調査に依ると、幼稚園出身兒童は同上非出身兒童に較べて、學力に於て優つて居るのである。即ち大正三年から大正五年に至る、毎年三月の卒業成績比較表を平均してみると、學力に於て甲の成績を取つたものを見ると幼稚園出身兒童は男四五・三、女四〇・九であるが幼稚園非出身兒童は男一四・二、女一七・一である。

又身體の方面で強の成績を取つたものを見るに、幼稚園出身兒童は男二八・三、女二九・五であるが、幼稚園非出身兒童は男二八・三、女二七・四である。身體の方は尙この上に弱の成績を參照して見ると、幼稚園出身兒童は同上非出身兒童と同程

大正五年七月調査

度か若しくは稍劣るやうである。幼稚園出身児童にして體格の弱を取る者が稍多いのは大いに考ふべきことであらうと思ふ、これは幼稚園に於て保育を受けたるが爲めに體格の弱を來たしたものであるか、それとも又幼稚園へ入る、上中流の家庭の幼兒が初から體格が弱く、寧ろ幼稚園保育を受けたるが故に、強の體格を得ることに於て、幼稚園出身児童と略似寄りの百分比を得ることが出來るのであるか、これは尙多々の實驗調査を經た後でなくしては遽かに判定しかねる問題である。

幼稚園は法令から見ると、家庭の補助機關たるに過ぎないことになつて居る、その施行細目は小學校令の中に規定されて居て、未だ獨立せるものとは認められて居ないらしい。しかし法令は兎に角、私は幼稚園といふものゝ可能性を何んに小さいものとは見積りたくないのである。

幼稚園保育は家庭の育兒法とは確かに違はないが、幼稚園は普通の家庭で行ひ難く、而ればならぬ、幼稚園は普段の家庭で居られるものでない、家庭

かも幼兒の完全に近き教育に於ては是非とも缺くことの出來ない特殊の教育を施す所なのである。

以上の一般問題から離れて、少しく自分の幼稚園に就てお話することを許して戴きたい、自分の幼稚園は日本橋區内にある。御承知の如く日本橋區といふところは人家稠密なところで、先祖代々の東京人種の多く居住して居るところである。各の家は互ひに障礙となつて、十分の日光に浴することは出來ない、近來では往來を除くの他、些の空地も餘すところなく、ざつしりと家並が建込んで居るために、もはや横に延びる餘裕は少しもないこととなつた、それで止むなく三階建、四階建の家が漸々その數を増して行く。

以上の如き有様であるから子供の遊び場所といふものは殆んど絶対に無いと言つてもよい位なのである、往還には電車が断間なしに動いて居る、自働車が駆け抜ける、荷車が通る、俾が行く、とても危険で遊んでなぞ居られるものでない、家庭

といつても、多くは植木鉢を並べるだけの庭さへ

もなく、室内も狭い、稍廣いのは店先きであるが、こゝでは絶対に遊ぶことは禁せられる。さあ斯うなると活動的な子供は一體何處で遊んだらいいのであらうか、兩親は纔かに菓子等を與へて彼等を慰めて居る。乃で日本橋區内の幼兒には恐しく胃腸病患者が多いことゝなる。これでは、とても子供を満足に育てることは六ヶ敷い。乃で哀しいかな斯ういふ結論が出來上る、曰く日本橋區は子供の爲めを思ふ人の住むべき場所にあらず。それ故心ある人は近來家族の居住地を郊外に求めて、そこから毎日汽車電車の便によつて、その店へ通ふやうにして居る、このほか尙他の原因も加つて、東京市に於て人口の減少して行くのは、ひとり日本橋區あるのみである。

併しながら、中には何うしても郊外へ移住しづき事情を有する人も決して少くはないのである、而して是等の人々の子弟幼兒は矢張日本橋區内に

於て教育せられざるを得ない。

日の光をあまり見たことのない母によつて産まれた日本橋區内の多くの幼兒は既に遺傳的に纖弱な體質を與へられて居る。而かも、彼等は十分なる戯動遊戯によつて強壯な體格を得ることは出来ないのである。以上の事情をお話すれば日本橋區に於て、よし庭がなくとも、百五十坪の屋上庭園を擧げて幼兒の自由遊び場たらしめて居る我が幼稚園が存在の可否問題などを超越して居るものなることを御了解になると信ずるのである。お話を自分の幼稚園に關する事柄になつて了つたが兎に角斯る方面から見ても幼稚園の價值が今更の如くに云爲さるべきではないのである。

(文責在記者)

# 秋のうた

(船遊びの譜にて)

へ 2/4

1. 1 1 3  
ケ フ 一 ハ

2. 1 2 3  
シ ズ カ ナ

5. 6 5 3  
ア キ ノ ヒ

2· 0  
ヨ

3. 4 5 5  
ノ ハ ラ ニ

2. 3 2 1  
イ 一 ツ テ

6. 6 5 6  
ア ゾ ピ マ

1 0  
セ ヴ

2 1 1 2  
ハ 一 ナ モ

3. 4 5 5  
イ ロ イ ロ

6. 5 3 6  
サ キ マ シ

5 0  
タ

5. 5 6 6  
ア カ キ イ

5. 5 3 3  
ム ラ サ キ

2. 2 3 2  
ト リ ド リ

1 0  
ニ

秋のうた

大坂市本田幼稚園

三宅友

今日は静な秋の日よ  
花も色々咲きました

野原に行つて遊びませう  
赤黄紫とりとりに。

桔梗撫子をみなへし

又ふじばかま咲いてゐる

葛花尾花はぎの花

秋の七草うつくしや。

(二)

あれ〜虫もなきだした

りんりんりんりん鈴虫や

チンチロチンチロ松虫や  
ガチャガチャガチャガチャ轡虫。

(四)

チヨン〜馬追スイッチヨン

キリキリキリキリキリぎりぎりす  
虫の樂隊おもしろや。

(五)

きれいな秋の七草や

草葉の中で鳴いてゐる  
取つて父さま母さまに

可愛い虫をたくさんに

おみやに持つて歸りませう。

## 幼稚園の葡萄

(散步唱歌の譜)

一、毎日／＼水をかけ

肥をやつたり蟲もとり

大事に育てたこの葡萄

とく／＼きれいな實が出來た。

二、今日はうれしい葡萄を取り

みーんな一緒に籠さげて

梯をかけて取りませう

幼稚園の葡萄を取りませう。

三、もうはや澤山取れました

お手を洗ひ口す／＼

甘しい葡萄を食べませう

先生と一緒に食べませう。(完)

## ○心理叢書の發刊

心理學研究會にては松本博士主唱の下に、左の規約を設けて心理叢書を發刊する由、因みにその第一冊は十一月一日發行、桑田文學士の「靈魂の信仰と祖先崇拜」と決定せりと。

### 『心理叢書』刊行會規約

- 一、本會は日本に於ける心理學上の獨創的研究を集成するため  
に、『心理叢書』を刊行する目的とす
- 二、本會の目的を贊成するものは何人にて會員となることを得
- 三、本會の會員たらんと欲するものは住所氏名を明記し、入會希望の旨を書添へ、東京帝國大學心理學教室内増田惟茂宛申込むべし
- 四、心理叢書は毎冊四六版約三百頁内外とし、年二冊乃至四冊を  
發刊し之を會員に配布す
- 五、會員は叢書の發刊毎に出版實費として金五拾錢内外の會費  
を前納するものとす(會費額は叢書の發行毎に會員に通知す)
- 六、會員は叢書の内容に關する疑義につき著者の解答を乞ふことを得、但しその答辨は之を「心理研究」誌上に掲ぐ
- 七、叢書の編輯を司るため委員五名を置く

松本　亦太郎　桑田　芳藏　増田　惟茂

土井　壯良　上野　陽一

八、本會の事務は之を心理學研究會出版部に委托す

# 畠のいろ／＼

京

子

## 四、洋ちゃん

圓顔の、ふさ／＼して髪をかぶさりにして、笑ふと可愛い口に真白なきれいな歯をみせて兩の頬に笑くばをたゞへ洋ちゃん。

といふと元祿袖をひろげてやつこさんのやうにバタ／＼と廊下をかけて來る様子が目に見える。赤い縁を取つた桃太郎さんのやうなエプロンをかけた。

洋ちゃんは無口な子だつた。あの入園當時には何か聞くと涼しい目を見張てだまつて保母の顔をみつめてゐた。そしてキチンと結んだ口もとは本当にばらの蕾のやうだつた。

洋ちゃんは組の中で年少なのになか／＼確りし

てゐた。「ちきメソ／＼と泣くやうなことはなく何でも一人でしやうとした。お辨當の時箸がグルグル紙に包んであつて出せないと決して人に解いてもらはふとはせず、まつ赤になつてまで一人でしやうとする。その中に前やお隣のお子が一口二口はじめると、あせる、なほといけない。でちれつたくなつてとう／＼泣き出すことが度々あつた。確りしてゐるだけによく剛情を張ては泣いた。はじめの中はあまり多くの子と遊ばなかつたが、三四日する中にお庭でお人形さんごっこをする時に上の級の子達が皆でなみちゃんを取りまゐて「お嬢さま」にして遊んでゐるのを見た。

そして「洋ちゃん、洋ちゃん」と云つて皆から可愛がられてゐた。

口をきくのはきらひだつたが機嫌のよい時には  
にこくとよく笑つた、本當に洋ちゃんは人形の  
やうな子だつた。一重まぶちの黒眼がちな、そして  
目立つほどではないがどこかにほぐろがあつた。  
今月の十五日に母様と一緒に來た時にはかぶき  
りを短くてしメリソスの友禪の袖を輕さうに、し  
ばらくお休みで見なかつたせいか大層丈も高くし  
つかりしたと皆で云つて居たのに。

お土産の摺紙もいつものやうに手ぎわよくこし  
らへて……「洋ちゃんあしたがらまたいらつしや  
るのね、皆で遊びませうね」と云つた時、室の入  
口の處で母様の後に立て居た洋ちゃんがいつもの  
くせで少し首をまげて笑ひながら肯いた様子が目  
にみえる。

「洋ちゃんは、あの時、おいとまに來たのですね」  
他の保姆の云た事が今更くりかへされる。  
梅雨のならひとてたえまなく降りつゝ雨空、  
不案内な細いぬかる道を今日斯うして洋ちゃんの

おくやみに來やうとは思はなかつた、思はなかつ  
た…………。洋ちゃんの可愛い足跡が、かつ  
てこの地に置かれたのだ、この花やのかざり棚も  
見ながら通たこともあるだらう、それをまがつて、  
などとしめばいあたりのすべてが洋ちゃんの事を  
思つてゐるやうに見える。

まるい電燈に「露木」といふ字の、出て居る御  
門の左の方、垣の間からあぢさわの花がみえた。  
あぢさわ。この花をみると悲しいことばかり聯想  
しなければならなくなつた。祖父様は六月廿四日  
夕、そして洋ちゃんは廿六日に。

お玄關に行くとお線香の香ひがたゞよつてゐ  
た。心の中にしみこむやうな氣がした。型ばかり  
におじぎをしてくやみの人の名を帳簿に記して居  
られる取次の方が——あの可愛い洋ちゃんがどう  
してこんな事に、どうしても夢のやうだ、どうか  
夢をさせたい。人形のやうな洋ちゃんの永眠つ  
た顔を見たらば……——とまで思つて來た私達に

は。あまりものたりなかつた。葬儀の日、時間。場

處などを聞いてゐる處へ看護婦が通た。ちよこ／＼

と袖にまつはつて洋ちゃんが出て來たらと空なこ

とを見て居ると、母上が出ていらしつて「こちらへ」とのことにして上た。

玄關からすぐの室に白い屏風にかこまれて、小さい白いお棺が。……

あゝ洋ちゃんは見られない。見られない。夢のやうなこの「洋ちゃんの死」はさめて事實としてなく永く／＼私の胸の中にはさめぬ夢になるのだろう。さめたいと思つたのだけれど「洋ちゃんのお顔を見せていたゞきたい」とはこの時はもう云へなかつた。「存命中は色々御世話様になまりして」とおしゃつたさり、そつとハンケチで眼を拭いていらしつた、あの父様の御様子をみては、何も云へなかつた。

一滴の涙もおとすまじと、つとめ、つとめて、おなげきやおつかれに少し青ざめて、お出の母上

を見あげては……なほさらであつた。

お棺の下には小さい草履や杖がみえる。

器用だつたあの小さい手はもうあんなものをもたなければならぬのかしら。洋ちゃんの母様はあまり多くをお話にならなかつた。

「おあとを御大切に」とお玄關を辭した時、をやみない雨はいよいよ降て瓦斯燈の光がうるんでゐる。それから一人植物園の傍の細い坂を下りながら今朝こゝを上の時には思もよらなかつた「死」といふことを考へ、また洋ちゃんの生前へ追想がたどつて行つた。

「洋ちゃん、父様はどこへ行らしつて？」

「大學へ」

「お母様は？」

「おしごと」

斯うした會話が入園後二三週間して後、洋ちゃんと保姆達との間にあつた。その時のお答は少し耳を傾けて聞く位な小さい、けれどもきれいな可

愛い聲であつた。

興にのつて笑ふ時の外はあまり大きい聲を出さなかつた。たつた一度幼稚園でおかへりの會集がすんで遊戯室から出て來るとき、小學校の兄が庭に迎に來てゐたのを見つけて「兄さん」と一聲大きな聲を出したことがあつた「まあ洋ちゃんが」とびつくりすると同時に兄様に會つたのがどんなにかうれしかたのだらうと察したことがあつた。

「父様の御洋行中に生れたので洋ちゃんといふ名だ」といふことはつたへ聞きにきいてゐる。父様もどんなにか可愛がつてお出だつたらう。よく大學へお出がけに洋ちゃんの小さい手をひいては幼稚園に送りこんでいらしつた。その時のお父様の御様子と今日の御様子と、そんな事を思て居ると、バタ／＼とあまやけたやうに両手をひろげてにこ／＼しながらうしろについて來る洋ちゃんの姿が。……足音までするやうな氣がして思はずぶりむいたが、ぬかるみきつた梅雨の街、ほんやりし

たがす燈に夕の色がたゞよつてゐるばかり。  
あゝ、夢のやうだ、さめるかしら。と家の門をくぐるまで、否、臥床に入るまで私の胸は「洋ちゃん」の名を抱いてゐる。

## 五、千富美さん

茶がちな目に愛くるしさをたゞへて、色白な、丈の低い、そしてブリ／＼と肥た、手首のくびれた具合、小さい指の背にボチ／＼へこみの出來た處、體格から云ても心持から云てもほんとうに申分なく育つた子。少し茶味のある、されどもすなはな、たつぱりある髪をまあい頭の形どうりに短く切て、あらい棒縞のさつぱりした、簡単な服に、眞白な靴下とみぢかい裾との間に肉付のいゝ足を見せて、いつも先生の後から行てはしつかりと手を握つてゐる、この子の名は「千富美さん」おきんちやくといはれるほど先生の傍に居るこ

は無理もないと許してゐた）それでゐてまた何でもよく獨りでする、そして自分より丈の高い新しく入った姉様達によくお友達になつてあげる、同じ位の小さな者とみるとすぐと姉様きどりで色々と細かい世話までもする。

色は黒いがふとり具合も、丈のひくさも同じ位な愛ちゃんが入りたてに、千富美さんが帽子を取つて上げようとしたが朝附添の女中がかけて行たとみえて背のびをして、とびついても、それなり。すると千富美さんかうすればいゝの。とよろ／＼しながら愛ちゃんを抱いた。そして二人で帽子をやつと見てニコ／＼してゐる事があつた。またお人形が大好きで、雨が降ると洋服の上に紐でおんぶして室で遊んでゐた。庭ではブランコが好きでよく乗た、あまり口數はきかない方で、入園したてはだまつて長いまつげを時々バチ／＼させながら先生の衣服をつかまへてゐた、「千富美さん」と呼ぶと口を結んだまゝ「フム……とふざけて

は笑つた。丁度繪のお月さまの笑顔のやうに、りんごのやうな頬の下に、可愛い口の兩側に八の字をかいて。同じお友達でゐて愛ちゃんはきりつとして、どつちかといふと神經家、千富美さんはむとんちやくなのはんき家だつた。お話の時など、千富美さんはだまつてニコ／＼して聞いてゐて、少しあさたりすると肥たお手々を二つ、あごの下にならべて頬杖をついたりすることもあつた。が、愛ちゃんは一心に両手を（先生の命令通りに）腰かけの後ろにやつて姿勢をよくして聞いてゐたが少し興奮した時などは痛高い聲で「先生愛ちゃん知てゐます」とそれからそれへとしやべりはじめたりした。

或時、千富美さんを横抱きにして「こんな大きな赤ちゃん」といふて目をつぶつてしまつた。

「オヤ」といふとばちと開いて、「フム……メリさん」

「メリさんて、どなた？」

「私のお人形さん」

「どなたにいたゞいたの?」

「ババのおみやげ」ゆつくりした調子で答へながら相不變ニコ／＼してゐた。

お迎ひがおそらくても、心配して泣くような事はなく、麥藁帽子をあみだにかぶつて、人の居ない玄關の段々に一人ボチにて腰をかけて、のんきにいつまでゝもまつてゐる。

「長崎へ轉任いたしますので」と退園届を母様がもつていらした時、羽二重の白い服をきて、相變らず口もとに笑くぼをみせてゐたのんきな千富美さんの様子にはさら先生はつらい思ひをした。

「お姉様に御本の間へ入れておいたゞきなさいね」と庭の萩を一枝、小さい、肥た手にもたせて、可愛い衿首を、あの人の形のやうな後姿を、——自分分のと思つてゐるものを持からもぎ取られてしまふやうな氣持で——先生は見送つてゐた。

母 父 祖 祖 父 母  
乃木 大將 大 將 神 武 天皇 天皇陛下

崇敬感情を調査すべく幼児に對して發せる質問語は「パンエライカタ」と一定せり。

左に掲ぐるは大正三年より同五年に至る三年間東京市日本橋區城東幼稚園に於て擔任保姆をして毎年四月入園の幼兒に就き入園當時一ヶ月以内に於て調査せしめたる幼兒感情調査表なり。因に該調査の對象たりし幼兒數は全體に於て百九十三名なりき。

## 幼兒感情調査

城東幼稚園調査

三 八 六 五 四 三 二 一 六 三

愛慕愛情を調査すべく幼兒に對して發せる質問語は「パンス」

## II 愛慕感情

不鬼駒自雇友弟男大姉兄桃武軍巡先  
ケ  
明女嶽己人  
人郎士人查生

四四一六八三三一一二八一一八三二

美弟大先友雇子赤妹姉兄伯伯母父祖  
人將生人人供坊母父母父

キナカタ」と一定せり。

を挙げたるもの

一一一七七四二一三三二二一一三三四二二名

### III 不明形憎惡感情

憎惡感情を調査すべく、幼兒に對して發せる質問語は「一パンキライナヒト」と一定せり。

他 雇 友 赤 妹 弟 姉 兄 伯 母 父 祖 祖

人 人 人 坊

父 母

父 を舉げたるもの

一 三 四  
八 ○ 二 二 一 七 五 三 一 ○ 七 五  
名

二 一

### IV 不明形恐怖感情

恐怖感情を調査すべく幼兒に對して發せる質問後は「一パンコワイモノ」と一定せり。

鬼 天 按 慢 惡 友 隣 大 警 兄 父 祖 祖

狗 摩 童 人 人 將 官

母

父 を舉げたるもの

一 四 一 一 一 一 二 二 三 四 一 ○ 一 六 五 四  
名

五 九 一

おばけ

佛 樣

魔 賊

閻 獄

面

魚 狐 盜

三ツ目小僧

牛 猪

五六

犬 狼 鰐 獅 猫

子

蛇

海

人

死

鯛

不

明

一

二

三

四

五

六

# フレーベルの思想

フレツチャードに據る

紹介子

萬有神論

自然が可見的の靈であり、靈が不可見的自然であるといふこと、事物は靈を實在とせるもの、外

貌に過ぎないこと。而してそれが爲めに事物は個人の心靈と同質であること。すべての自然是生活して居り、而して無窮の生產力に於てその生活を表現して居ること。萬物は神と共に一體を成して居ること、而してこの意味に於て萬物が靈的であること。人間はこの本質的の渾一を理解することに於て満足を見出さうとして居ること——以上がフレーベルの哲學の本質的諸相であります、而して是等は漠然としては居りますが、シェリングやフィヒテの哲學を現して居るのであります。

フレーベルが是等の哲學説を味ふ場合にいつも嚴正な形而上學的な、又論理的な批判を加へたか何うかといふことは頗る疑はしいものであらうと思ひます、彼の心は、はつきりとした直截な思索を彼にまで來らしむことを許すべく、餘りに夢み勝ちであり、又餘りに神秘的でありました。

啻に哲學に於てのみならず、あらゆる問題に關しての思考力を厳格に訓練してなかつたこと、及

び長い間淋しい自然を、詩人の心持を以て眺め暮してゐたことが、フレーベルをして、上の如き思考を不可能ならしめたことは明かであります。兎に角抽象的な概括的な、而して又朦朧たる物言ひの中に満足を見出す彼の傾向は、不確定な記述を來たさしめたばかりでなく、神が萬物に對して好意と愛情とを持つて居ること、及びそれがために人間性には價値があるといふ思想を軸として回轉する無晶形の感情の一體を表示して居ります。

彼の思想がその本質及び包意に於て屢々萬有神論的であるといふことをフレーベル自身は認めて居らないのであります——フレーベルは萬有神論を嫌うて居たのでありますから。尤もフレーベルの拒否して居た萬有神論といふのは、最も生硬な形式を執つて居るもので、自然の中に神の身體を認めるといふやうな萬有神論であります。

もつとリファインされた萬有神論の形式、即ち萬物の現實性と神性とを一致せしめ、すべてのも

の——勿論この中には惡をも含む——に對して神の好意と本質的に結合することを要求するところの萬有神論が彼の全教育の底に横つて居るのであります。

### ▲ペスタロツチ▼

フレーベルは以上の諸影響の他に、ペスタロツチの影響に負ふ所が大であります、多分彼が自身で認めてゐた以上にこの影響は大なるものであります。フレーベルの教育原理の萌芽は大抵これをペスタロツチの教育原理の中に求めることの出来るを見ても、ペスタロツチが如何にフレーベルに感化影響を與へてゐたか分かるであります、教育的過程とは個人がその周圍に對して行ふところの繼續的反作用であるといふ基礎的公理もフレーベルはペスタロツチから受取つて居るのであります。

「内なるものを外へ」“the outer inner, and the inner outer”といふ概括的な、不確定な語句はその意義が曖昧模糊たるにも拘らず、フレーベルの學徒の合言葉の如くに用ゐられて來て居るのであります。

彼はフランクフルトのグルーネルス、モーデル、スクールに教鞭を取つた頃のことを書いたもの、中に次のやうなことを言つて居ります。

「教育、教授の合言葉はペスタロツチであつた、この合言葉は直ちに私に強く印象せられたのである、何故ならばグルーネルも、他のもう一人の教師もペスタロツチのお弟子であつたからである。グルーネルはその頃既にペスタロツチの教授法に關して一部の著書を公にしてゐた位であつた、ペスタロツチの名前は益々私を感動せしめた、何故ならばそれは力及びインスピレーションの源泉として、風の如くに目に入らぬものではあつたが、私の發達と自修とに資する所が多かつたからであ

る——然る時にベスタロッチに關するあらゆる事

柄が私の上に力強く働いたといふことは少しも不思議はないであらう——。間もなく私は、斯くの如く多く考へ又行つたこの人の生涯を知り、著作を讀まうと決心したのである」

### ▲イベルトンへ

乃で彼は一八〇五年の夏にイベルトンを訪れて彼地に半月ばかり滯在しました、彼はこのことにして次のように言つて居ります。

「その頃の氣分で、もつと長く彼地に留つてゐたとしたならば、私はそれを欲してゐたのではあるが、私の心情と心意と心靈とは直に破られて丁つたに違ひないことを私は感する、丁度その頃イベルトンの生活は内部的、外部的の兩方面に於て、

強い感激と烈しい努力とに依つて著しかつたのである」。

彼はこのイベルトン訪問の記事の中に尙斯うい

ふことを言つて居ります。

「私は尙學理にも教授の實際にも暗かつた、私は未だその頃學校時代の回想の上に生活して居たためにベスタロッチの系統の細部や全體の組織を見取ることが出来なかつた、」

而かも彼は批評の眼を閉ぢせられるまでに勇氣を失つて了ひはしませんでした。彼には、全體の組織の相互關係が實際には明確な意識の中にも外部の表現の中にも存在して居ないやうに見えたのであります、而してその結果として彼はその見聞せるところに依り、勇氣を得るが早いか沮喪して丁ひ、刺戟を受けたと同時に迷つて了つたのであります。

### ▲善い點、悪い點

彼はこの時の印象を次のやうに述べて居ります  
「私がベスタロッチの許にしばらく滯在して居た間に集め得た結果は、明かなよく整へられた計畫

に基いて行はれて居る大きな學校の教授振りを見たといふことであつた、あの種の計畫は私も尙且之を有して居るのである、私の見る所を以てすればベスタロッヂの計畫は多くの優れた點を含んで居ると同時に多くの不便な點をも亦含んで居ると思ふ、すべての組に於て多くの生徒が同時に同一の主題に就て教授せられるといふことが私には特に面白く感せられた、各の組に對して教授の主題が定められてゐた、けれども生徒はその能力に應じて各の主題に對して分配せられるのである、それ故に各の組の生徒の顏觸は主題に依つて異なるのである、これは非常に便利だと思つて私はその後以來、この式を採用して居り、今でも撤廢しやうとは思つて居ないのである

「ベスタロッヂの計畫の不便な點といふのは、

これは私も今自身で何うしたらよからうかと頻りに模索して居る所なのであるが、計畫の不完全と一向さであるといふことである。完全な調和

的な人の發達に缺くべからざる教授の二三の主題があまり顧みられず、繼子扱ひにされ、十分に手が盡されてゐないやうに私には思はれる」

フレーベルはこれから重要な主題に就て、その細部を檢し、その教授法を批評して居ります、而てその教授法が一般に教權を強ゆるやうな調子であつて、生徒の獨創性に訴ふることの妙いことを擧げて居ります。

### ▲教育の目的

その後フレーベルがグルーネルの學校を去つて三人の兄弟の家庭教師となつてゐた頃までの數年間彼の心の中に醸されてゐた問題は「初等教育とは何であるか、ベスタロッヂの方法の眞の意義は何であるか、概括して教育の目的は何であるか」、

彼はこの最後の問ひに答へて次の如く言つて居ります。

「私は次の觀察點から出發した、人は事物の世界

に住む、事物は人を愛す、而して人は事物を愛したいと望んで居る、乃で人は事物の性質や本質を知らなければならぬ、又事物と事物との關係や事物と人との關係を知らなければならぬ。事物は形式(形式の教義)と壯大(壯大の教義)と多様(數の教義)とを持つて居る。外的 세계といふ言葉によつて私はたゞ自然だけを意味してゐた。私は藝術的の產物及び人間の他の產物が私にとつて存在しない自然の中に大變長く住んで居た、それ故に初等教育の手段の中に人間の仕事の斯る結果を取込

むやうに私を教育するまでには長い間の努力を要したのである……、私が「外的 세계」といふ言葉に人間の產物の全體を加へた時にそれは私の內的及び外的の水平線の一大擴張であつた……。その頃私は「すべてが渾一である、すべてが渾一から出發して行く、すべてが渾一を目指して努力し進んで行く、而して又渾一に歸つて行く。この渾一をして努力し、渾一を求めて努力して行くのが人間生活に種々相をさせしめる所以である」と考へてゐた。

## 行 啓 の 日

皇后陛下には十月二十三日午前九時御出門、東京女子高等師範學校へ行啓、その午後に於て、特に附屬幼稚園に臨御、児童保育の實況を御覽せられた。此の一篇は、その有り難き日の、たゞあらましの覺えがきに過ぎぬ。

幼稚園の門の内の大銀杏樹には、秋の日が其の高雅なる彩り豊満なる誇りを見せて居る。保育室の窓下に咲き

列ねた菊の花壇には、秋の日が其の高雅なる彩りを飾つて居る。本校の運動場から小學校の運動場を経て、春には紫の雲たなびく藤棚の下を、砂場に添ふて、幔幕巖となる幼稚園正面入口まで、審査のあとも清らにしつらへたる盛砂の御歩道に

は、折から薄絹に包んだ玉の光りの様な、つゝましやかな日影がさして居る。今しも、遠く校庭から聞えて来る曲おもしろき奏樂の音よ。いつもに増して嬉々として輝ける幼兒等の顔よ。若き保母達の心は己が呼吸をも自ら數へる様のおもひに緊張して居る。

心を籠め力を籠めて拭ひ清めた他には、何等平常と異なる際立ちたる裝飾などはしてない。遊戯室は、正面に白布につゝみて一段高くしつらへた御座所の側を少し離れて、青銅の大花瓶に、菊の黄と梅もどきの紅とを、わざと其の道の人の手を煩はさず保母が誠心のみで活けてあるのが、せめてもの装ひと見ようか。例の富士と海上との二面の大額を始め、四邊の壁間に懸けてある馬、獅子等の動物畫、子供を描いた額、いづれも常のまゝに、ひたぶるに飾りなき恭敬の意を主とし居る。保育室には、これもつとめて飾らざる平生のまゝをと、一切のわざとらしさを避けた處に、なか／＼

に苦心の用意が思はれる。たゞ各室ともに黒板畫には、さすがに今日を榮へと一段の心をこめてある。第一室の散り敷く紅葉の錦に二頭の鹿を配したる。第二室の千草亂れ咲く秋野に一もと菊の妍を誇れる。第三室の紅葉の大樹秋晴の天を占めて立てる。第四室の小菊咲く庭の日和に愛らしき女児の遊べる。色チョークの色もとり／＼に美しい。殊に此日の傑作とすべきは、各保育室の模ボールドに描かれてある幼兒の畫である。花電車、飛行機、軍艦、海上の日の出、菊と家、など、例の幼兒が得意の畫題の中にわけてもおもしろきは、行啓の御行列を描きて、御馬車、先驅の騎兵等に着想と筆致の妙を極めて居ることである。

・此の日幼稚園にて、御覽の榮に浴したる幼兒作業は、第一部二の組甲の遊戲(保母奈良山梅)、第一部一部第二部三の組の遊戲(保母奈良山梅)、第一部一の組の豆細工及び紙細工(保母大瀧晴)、第一部二の組乙の繋き方(保母杉本ふさ)、第一部一の組

の剪り方及書き方(研究科生小高ツヤ)、第二部二の組の積み方(保坂内ミツ)であつた。此の中遊戯は遊戯室にて、他はそれ／＼保育室にて、御機嫌いともうるはしく、畏れ多きばかり御懇ろに、御興味深く、御覽あらせられたる由に承はる。遊戯の『桃太郎』、『ねぐらの雀』、『飛行機の夢』は、その愛らしき合唱と動作とを、如何に可憐にみそなはせられたであろうか。各種の手技の、或は汽車に、或は旗に幼き趣向のさま／＼を、如何におかしくみそなはせられたであろうか。又此の日校長より捧呈の品々の中には、幼児の製作品も亦含まれたりと聞く。それ等の品々をも、如何におかし

くみそなはせられたであろうか。思ひ見るだも、實に畏しくも亦有り難きことである。殊に陛下には御幼少の御砌り、一年ばかりを幼兒として此の幼稚園に通はせられたる由に承はる。遊園其他にさま／＼の遷りかはりこそあれ、建物は昔を其のまゝの位置をかへず。古き御思ひ出の數々を、御さそひまゐらせる。漏れ承はる處によれば、その頃の御思ひ出を偲び給ふ様の御言葉もありしかとるへ聞く。——御上のこととは推しまゐらするも畏し。たゞ、光榮多き幼兒達よ。此の光榮の日と母園とを永く忘るゝことなかれ。

## 文展の子供の繪

倉 橋 生

今年の文展には子供の繪が甚だ少い。殊に子供の繪の研究といふ意味から、記憶に殘るような作

は殆んど無いと言つてもよい。審査の標準が少し高くなつたか出品が比較的精選せられ、殊に俗惡

な美人畫が淘汰せられて展覽會としては大に心持ちのよい展覽會であるが、子供の繪の少いことは大に吾輩を失望させた。しかし例年の例だからといふので、催促せられて少し書く。

此の展覽會で一番目につくのは、田舎のある素朴な平和な氣分を描く爲に、その材料の一つとして用ひられて居る子供の多いことである。『志摩の五月』(渡邊公觀)、『桃の里』(山下竹齋)、『素焼』(満谷國四郎)、『水郷の初夏』(小寺謙吉)等がそれである。而して、之れは純粹に子供を描く爲の子供の繪としては見られぬものであるけれども、子供の生活の或る一面が、氣分的に取扱はれて居るものとしては注意に價する。ミレーの作などに此の類ひのものがある。さて此の中で最も優れて居ると思つたのは『素焼』である。あの母親に抱かれて、皆が焼物に就て話しあつて居る、そんな話には無頓着に、右の手を母の懷に入れて、乳房をさがして居る心持、殊に母の手に抱きかゝられた子供

の腰から、足の極く自然な線の錯綜に、實に敬嘆すべき妙味がある。吾輩は此の畫の前に立つて、ちつと眺めて居る間に、ゆるやかに、のんびりした此の畫面の氣分に吸ひ込まれてゆく様な感を味つたが、それには此の子供の無心な平淡な趣が識らず／＼の間に大に與つて居る。『水郷の初夏』では、入江に近い田舎家の前庭で、子供が行水を使はせられて居る。年齢は丁度『素焼』の子供と同じ三歳位ゐ。その背をまるめた盥の中の裸體が可なりよく描かれて居る。しかし、此の畫家は此の畫面中に此の子供を置く、着想上の必然性について果してどれ丈けの確乎たる考へを持つて居るのか、その點に多少の疑がある。『素焼』ではあの子供を除くとあの畫全體のエフェクトがこわれる。それ程に彼の畫と彼の子供との融合が、しつかり出來て居る。『水郷の初夏』には、それ程の強い確信があるかどうか。之れは畫家の主觀に入ることで論議の限りでもなく、また餘り立ち入つて穿鑿する

のは禮でないのであるが、此の作に於ける此の子供を研究するとしては、どうしても茲まで突き込んで行かざるを得ぬ。蓋し畫中、子供といふ限りに於ては、吾輩の方が恐らく畫家自身よりも、より多くのインボーテンスを要求して見て居るからである。そこで最も思ふまゝを言へば、『素焼』の子供の實に現實の子供なるに對して、『水郷の初夏』の子供は、水郷の初夏といふ詩中の子供といふ風があつて、それだけ力が弱いといふことになる。

而して、之れは此の兩作の比較についていふばかりでなく、一般に、子供をあしらへる畫について屢々言ひ得る比較である。『志摩の五月』と『桃の里』とは、子供そのものよりも、子供の幸福なる環境といふことを先づ思はせられる。

『首夏』(清水古關)の玉蜀黍をもいて居る女の子は、その體格の描寫に於て、大に成功して居る。殊に横向きの襟り足から背、背から帶へかけてのあたり、確に、彼の蹙縮すべき、成人を小さくし

た子供の繪ではない。又その力強い足に、田舎の子供といふこともよくあらはれて居る。たゞ此の子の個性といふものゝハッキリして居ないのは、繪の子供といふ域を脱して居ないが、そこまでの注文は容易のことであるまい。

『月蝕の宵』(上村松園)は、實に名作である。畫題に應する心持ちが、充分に畫面に漂ふて居る。殊に此の一人の子供を配し來つて、其の印象を更に一步強めた處に、流石に名手敬服すべきものがいる。殊に叔母さんの紗の羽織の裾を使つて、おどけた顔をすかして見せるとは、ボンヤリと明るい月蝕の宵をあらはすに憎い程の手腕である。而して、其の子供が實によくふざけて居る。斯くて此の畫に碎けた、較いユーモアの調子を點じて、實に月蝕の宵の眞面目の様な遊びの様な氣分をよく出してある。之れ等も畫中に子供の最も巧みな使ひ方の一つであらう。

それから、比較的子供が主になつて居ると見る

べき畫には『樹蔭』(田邊至)、『ひがん花』(清水良雄)、『桺さき』(森岡柳藏)、『庭の木蔭』(大久保作次郎)、『食後』(渡邊ふみ子)がある。が、『庭の木蔭』を除いては、他は如何にも手致が幼くて、何等の強い印象を残さない。殊に『桺さき』では、着物の上からのみ見て、眞に子供の骨格の研究に乏しい一般子供繪の弱點があらはれて居る。『庭の木蔭』は庭の木蔭といふイメージな、ふだんの感じがよく出て居る。此のふだんの感じといふことは、

子供繪には極めて必要なる一つの條件であつて、子供は、よそいきにしなければ繪にならぬとでもいふ様な思ひ違ふは、子供繪の發達に甚だ有害なものである。衣裳、動作に於ては勿論、氣分そのものに於て、ふだんの處に子供の美を發見し得ないものは、子供を描く資格はない。此の作は此の

點に於て近來珍らしい出色の畫であるといつてよい。

## ○上野氏『學校兒童精神検査

### 法指針』

文學士上野陽一氏の新著『學校兒童精神検査法指針』は兒童研究の方法を懇切に示した近來の好著である。兒童研究、兒童研究と呼んでも、要は實際の兒童研究が多く行はれなければならんとして、それには、正確なる研究法の指針が是非とも必要である。此の書は實に此の要求に應するもの、上野學士の手際よき叙述を以て、充分に其の目的を達して居る。學校兒童と題してはあるが、幼兒研究にも亦無論適用せられる。各幼稚園に必携の書の一つとして、廣く推舉する。(東京市外上駒込、心理學研究會出版部發行、定價金六拾五錢)

### 雜錄

## ○福島縣保育大會

福島縣保育大會は十月廿二日午前九時半より郡山子守教場に於て開會せられた、是れより前き出席員は午前八時より郡山幼稚園の實地保育を參觀し、少憩、この間参考品展覽會の縱覽あり、後開會したが、此日天晴れ氣清く心氣又頗る爽快、當番郡山幼稚園々長慶徳多一氏開會の辭に兼ねて諸報告を爲し、來賓遠藤安積郡長及出席員須藤二本

松幼稚園長原喜多方幼稚園長の祝辭があつた。

### ▲協議題

一、保母養成と保母検定とに關し縣當局と交渉

の件（若松幼稚園提出）

に移り、松山理事の説明あり、福島、二本松、喜多方等の質問あり、延期、巡回講習、撤回等の説出で若松は、延期に依りて財政に餘裕を生するものにあらざれば本年位に實行したしと希望し、須賀川よりも一日も早くとの賛成あり、熟考の後午後結果

海老名氏の説明、二三の意見

三、附添と幼兒との關係につき注意事項保育時

間に於ける附添人の取締方法如何（若松）

四、縣下に於て標準的保育細目を作製する可否  
(郡山)

慶徳園長會長席に付き附議、出題者若松幼稚園海老名元子氏の説明がある原氏より斯る問題に就ては郡視學の出席方を取り計らはるれば幸甚との意見を述べ遠藤郡長より郡視學は學事視察のため他出せるを演べ、郡當局も諸君の熱誠なる會合を感謝すればとして議事を繰り合せて出席する旨を陳じ

一、各組の擔任保母を一週交代にするの可否  
(福島幼稚園提出)

### ▲研究題

に移り須子氏より説明あり原氏より可否を厳格に區別するの必要なかるべしとの意見あり次で  
二、保育満了附近に於ける幼兒の様方につき注意の點如何（福島）

須子氏の説明あり、別に意見なし

三、附添と幼兒との關係につき注意事項保育時  
間に於ける附添人の取締方法如何（若松）

四、縣下に於て標準的保育細目を作製する可否  
(郡山)

慶徳園長會長席に付き附議、出題者若松幼稚園海老名元子氏の説明がある原氏より斯る問題に就ては郡視學の出席方を取り計らはるれば幸甚との意見を述べ遠藤郡長より郡視學は學事視察のため他出せるを演べ、郡當局も諸君の熱誠なる會合を感謝すればとして議事を繰り合せて出席する旨を陳じ  
決して冷淡なるにあらざるを演べ、原氏頗る満足の意を表し、茲に協議は一進して當番幹事に於て

縣當局に協議することに決定、次で

二、幼兒入園の際並に保育満了の際に於ける心身發達の程度並に行狀嗜好性癖等を調査して参考に資するの必要なきか、若しありとせば本會に於て一定の項目様式を調査し明年度より實施するの可否如何（一本松幼稚園出題）

に移る提出者の説明に次で宗形福島幼稚園長より

其目的に就ての質問あり、提出者の説明、原氏の意見等あり、宗形氏の修正說出て、結局福島、二本松郡山の三幼稚園に於て修正提案を各幼稚園に送付することに決定、次に

三、本縣下に保育講習會開催の件（郡山幼稚園提出）

松山理事の説明、二三問答の上、福島、二本松、郡

山の三委員に於て細目を要目と改めて着手することに決定、

五、幼兒に賞與として物品を與ふるの可否（喜多方）

原氏の説明あり、郡山幼稚園の説明を可とし

六、下流社會の幼兒をして中流社會の幼稚と同じく作法的動作に屬する善習慣的行為を徹底せしむる方法如何（喜多方）

原氏の説明、二三の意見交換あり次に

### ▲談話題

一、各園に於ける身體検査の全國の標準に比せ

る結果承りたし

二、智力検査の方法並に實驗談承はりたし

三、活動寫眞を絶対に禁じたし各園の御意見如何（三題福島）

四、雷鳴時に於ける幼兒の處置につき御經驗承りたし

五、競争に屬する團體遊戯に際し特に注意すべき點を承りたし（二題若松）

六、個人的保育法を實施して良結果を收めたる實驗談承りたし

七、保育室に於ける幼児の排列は如何なる形式

によるを最も適當とするか

### 二本松幼稚園主任保母 安藤 ふく 三、大人じみたる幼児の取扱に就て

八、毎朝會集の際に於ける有効なる保育法承り

たし

九、幼児保育上特に注意すべき牀上の要目承り

たし。（四題二本松）

十、内遊の際（冬季又は雨天の際）に於ける自由

遊戯の種類及その指導法承り（郡山）

十一、恩物の使用法に就て

十二、出席を好まざる幼児をして出席するに至

らしめたる實驗談を承りたし（二題喜多方）

何づれも有益なる談話にて各自得る處妙なからず  
右終つて休憩中記念の撮映あり續いて

### ▲實驗談

一、おひな遊びに就て

福島幼稚園主任保母 須子とみ

二、玩具に就て

桑折幼稚園長安藤政輝△保母引地キク福島幼稚園長宗形二郎△保母須子トミ、高橋ヤイ、中村静江△二本松幼稚園長須藤由一郎△保母安藤フク、須賀トミ、齊藤シヅ△須賀川幼稚園長杉原助△理事石丸常次郎△保母須郷ヒサ、岩間ウラ△白河幼稚園保母小林タツ、目黒花、喜多方幼稚園長原平藏、松崎フミ、廣岡敏子、高橋つな△會津保育園長河井臥龍△保母増井芳子△若松幼稚園主海老名元△保母八島千代子、中島キヨ△郡山幼稚園長慶徳多一△理事松山政治△保母

松山イ子、柏木エツ、吉田直松、本ミツ△福島

學校教員長谷川ノブ、濵川泰

一、所 感

二本松幼稚園長 須藤由一郎

須賀川幼稚園長 杉原治助

尙右閉會後參列有志者によりて唱歌遊戯の交換あり、終つて午後七時より保育通俗講演會を開く、

演頭左の如し。

一、開會を宣して保育の要に迫る

郡山幼稚園長 慶徳多一

一、幼兒保育と宗教

會津保育院長 河井臥龍

一、母のつとめ

郡山幼稚園理事 松山政治

一、東郷大將の青年時代

茨城古河幼稚園長 丸山義一

一、教育の效果

喜多方幼稚園長 原平藏

一、良母

安積高等女學校長 安藤義文

一、不幸兒の教育に就き

尙附設展覽會として會場の一部に各種の研究物、統計物、成績品及恩物、保育に關する圖書等を陳列したるが中々に趣味多く又研究資料として多大なる價値あり、參觀者に與へたる新智識の渺なからざるべく規模小ながら實質に於て成功を見たるは悦ぶべし。

### ○フレーベル會總會

フレーベル會總會は十月二十九日午後一時より東京女子高等師範學校に開催せられ、出席者百餘名頗る盛會であつた。當日は講演、倉橋文學士の『滿鮮幼兒教育觀察談』及び澤村文學士の『現代に於ける日本畫の潮流』があつたが、共に本誌上に其の筆記を掲載する筈である。

### ○大阪市保育會講習會

大阪市保育會にては、本月十一日より一週間、倉橋慈三氏を聘して、保育法に關する講習會を開催する由。

フレーベル會規則（抄）

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ醵出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達セんが爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、保育參考品

二、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、協議、實驗等ヲナス

三、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス

但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス

一、雜誌發行、毎月一同雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス  
一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

本會會長

中川謙二郎

（イロハ順）

井 村 くに晴	池 田 トヨ	坂 内 ミツ
大 滉	和 田 實	和 田 くら
奈 良 山	倉 橋 惣 三	
福 田 ふく	小 向 きみ	
杉 本 ふみ	和 田 実	

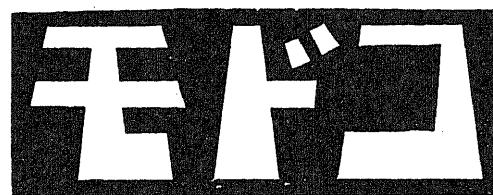
本會評議員  
（イロハ順）

伊 澤 倫 二	乙 竹 岩 造	吉 田 熊 次	田 中 ふさ
波 多 野 貞 之 助	野 口 幽 香	横 山 栄 一	倉 橋 惣 三
月 野 周 次 郎	下 田 次 郎	日 田 権 一	和 田 実
尾 田 信 忠			

嚴 谷 季 雄	岩 谷 英 太 郎	坂 内 ミツ
細 川 潤 次 郎	本 間 辰 藏	和 田 くら
大 濱 甚 太 郎	奥 好 義	
大 久 保 介 寿	嘉 納 治 五 郎	
谷 本 富 富	高 島 平 三 郎	
多 田 房 之 輔	田 中 敏 一	
中 村 五 六	野 尻 精 一	
久 留 島 武 彦	松 本 亦 太 郎	
馬 上 孝 太 郎	富 土 川 游	
淺 岡 一 良	雀 部 顯 宜	
瀬 川 昌 著	田 利 英 郎	

菅 原 敬 造	井 光 华 吉	井 光 华 吉	坂 内 ミツ
東 岸 基	小 西 信 八	小 西 信 八	和 田 実
櫻 本 孝 次	松 本 孝 次	松 本 孝 次	安 井 哲
上 野 俊 夫	上 野 俊 夫	上 野 俊 夫	坂 井 ふ
橋 橋 源 太 郎	橋 橋 源 太 郎	橋 橋 源 太 郎	和 田 くら
中 島 力 造	中 島 力 造	中 島 力 造	
唐 澤 光 德	唐 澤 光 德	唐 澤 光 德	
澤 光 德	澤 光 德	澤 光 德	
力 造	力 造	力 造	
忠	忠	忠	

顧問高島平三郎先生



## 日本一本の繪雑誌

### 特色の誌本

- 最もまじめなこと
- 最も教育的なこと
- 最も平易なこと
- 繪の美しいこと
- 記事の面白いこと

本誌は最も着實にして教育的幾多畫雜誌中獨自の地歩を占む。記事は全部片假名にて極めて平易。八九歳以下の子供の絶好伴侶なり。

東京市小石川区林町五十七番地

モドコ社  
六二番  
六三番  
一九番  
七番  
東京町番號

發行所  
電振  
替話  
郵稅五厘  
共壹圓拾錢  
總前金  
五拾八錢  
六冊郵稅共  
十二冊郵稅共  
定價一冊拾錢